



認定NPO法人環境ネットワーク埼玉通信



E・N・S通信

No.32



埼玉県地球温暖化防止活動推進センター

Saitama Center for Climate Change Actions



Index

表紙寄稿：志田 崇氏
(城西大学 経営学部 准教授)
環境ネットワーク埼玉より
中小事業者向け省エネ支援情報
埼玉県地球温暖化防止活動推進
センターより
事務局からお知らせ



持続的成長社会に向けて

城西大学 経営学部 准教授 志田 崇

2021年はCOP26も開催され、国際社会の脱炭素に向けた取組は益々加速していくものと思われます。そうした中、日本においても脱炭素に向けた取組は進められていくと思いますが、その際に留意すべき視点として「持続的成長」があると思っています。

私は約25年間、総合電機メーカーにて主に電力部門の企画・営業を経て、現在は所属している大学にて経営学、環境経営を中心に研究・教育活動を行っております。企業はこれまで経済性優先で、環境対応は「やった方がいい」という風潮が少なからずありましたが、経営学の中で「共通価値の創造」(CSV (Creating Shared Value)) という概念により、「経済的価値」に加え、「社会的価値」も同時に追及する考えが重要であることが提唱されています。

脱炭素に取り組むにあたり、「経済的価値」か「社会的価値」という二者択一的な考えではなく、両方を同時に実現することにより、「持続的成長」が可能となり、現在のSDGsの対応にもつながるものになるのではないかと思います。

こうした考えの事例研究や、環境ボランティアへの参加などによる体験学習など、幅広く学生とともに進めております。





第3回SDGsエコフォーラムin埼玉を開催



2021年12月12日（日）、今年度も恒例のSDGsエコフォーラムin埼玉をソニックシティ（会場）とオンライン併用で開催し、延べ387人の参加を得ました。

基調講演では、一般財団法人気象業務支援センターの鬼頭昭雄氏をお招きして、「身近に迫る気候危機と防災」と題し、IPCC AR6 やノーベル物理学賞を受賞された真鍋氏の功績を交えながら、近年の災害をもたらす気象現象と地球温暖化の因果関係や緩和と適応策の重要性等について解説いただきました。また、学生によるSDGsへの取組スピーチでは、栄東高等学校1年生の斎藤勇太氏に、環境問題の視点から学校給食でのミートフリー運動について元気よく発表いただきました。若いパワーと熱き思いに、多くの参加者が胸を打たれました。今回は特に、埼玉県による埼玉県地球温暖化防止活動推進員感謝状贈呈式も執り行われ、この場を借りて10年間継続の推進員活動の功績を称えました。

午後の分科会では、脱炭素を統一テーマとし、5つの分科会で脱炭素社会の実現について議論や意見交換を行いました。今回、特徴的な分科会としては、主に県内に通う大学生に集まってもらい、グループごとの調べ発表やワールドカフェ形式で社会人との意見交換等、若者が温暖化問題を自分事として捉え、行動へとつなげる機会としました。



若者と脱炭素ワークショップを開催

今年度新たな取組として、次世代を担う若者を対象に脱炭素な社会や暮らしを創造する機会作りや場の提供を行いました。主に県内の大学生等、50名が本事業に参加してくれました。2回の座学と2日間のワークショップを通して、興味のあるテーマごとに班編成を行い、グループごとにテーマ



の深掘を行った成果を、第3回SDGsエコフォーラムin埼玉分科会



において発表しました。感想としては、学生が自ら活動していくには課題も多く、当団体としてもその根をしっかりと生やすべく、場の提供や学生同士をつなげるような支援が必要なものも分かり、次年度も引き続き若者を対象とした活動を展開していきたいと考えています。



中小事業者向け省エネ支援



蒸気温度測定の様子

今年度も、中小事業所向け省エネ対策への支援として2つの事業を行いました。

埼玉県が実施している「埼玉県省エネナビゲーター事業」の事務局として、今年度は42件の中小事業所を対象に省エネ診断を支援しました。今年度はコロナ禍ではありましたが、中小事業者の省エネへの関心度は高く、診断件数も昨年度比3割増となりました。

経済産業省の補助事業である「地域プラットフォーム事業」では、今年度から「省エネお助け隊」と称し、埼玉県と茨城県で中小事業者の支援を行いました。今年度から一部有償となりました

が、13社（埼玉9社、茨城4社）と省エネ支援の契約を締結することができました。より専門性を必要とされる依頼が多く、それに対応できる支援体制が充実してきたことを実感しました。

また、「省エネ対策セミナー」をさいたま市とつくば市の2ヶ所で開催しました。両会場とも専門家の大西義人先生に、実践につながる省エネ取組についてわかりやすく説明を頂き、合わせて、先行事例の発表や公的な補助金の最新情報などを紹介し、多くの参加者に満足いただきました。

今後、脱炭素へ向けて中小事業者の取組がさらに重要となっており、省エネ対策以外にも多岐に渡った支援を展開していきたいと考えています。



セミナーの様子

令和3年度彩の国埼玉環境大賞 受賞者決定 大賞（県民部門）：特定非営利活動法人ジョイライフさやま

埼玉県、株式会社テレビ埼玉、当センターの3者で主催する令和3年度彩の国埼玉環境大賞受賞者が決定しました。本事業は、環境保全や環境学習などに取り組む個人や団体、環境に関する社会貢献活動等を行う企業を表彰するもので、応募総数39組から県民部門として「特定非営利活動法人ジョイライフさやま」、事業者部門として「株式会社シード」が大賞に選ばれました。県民部門大賞を受賞した、ジョイライフさやまは、入間川の水辺周辺整備と自然を守る環境学習を実践し、2016年から藪を開拓して景観を改善してきました。2019年の台風19号等で岸辺林が再び藪化しましたが、コロナ禍で参加人数が限られる中でも水辺再生活動を行い、再び緑あふれる水辺周辺林へと変えました。また、環境活動による地域活性化を目指し、多様な連携のもと自然の森遊び活動や生態系調査、漂流プラごみの収集体験などを行っています。

今年度は感染対策を徹底し、2月9日（水）に知事公館にて表彰式が行われ、大野埼玉県知事より表彰状が授与されました。



大賞（県民部門）表彰の様子



若者の脱炭素に関するライフスタイル調査

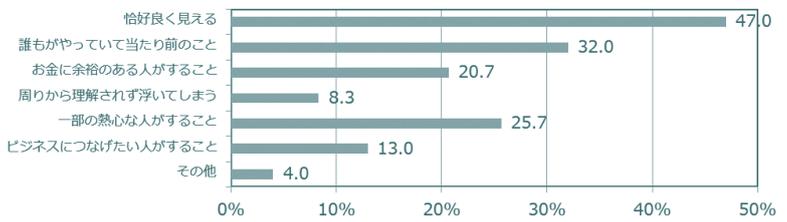
2050年にカーボンニュートラルが目標となる中、30年後社会の中心を担うであろう若い世代を対象に、脱炭素に対する意識調査を行いました。Web調査を活用し、埼玉県内に在住・在勤・在籍する“脱炭素に取り組んでみたい”18～25歳の男女300人を対象に調査を行いました。

調査から、脱炭素に取り組む人に対して、「恰好良く見える」「誰もがやっていて当たり前のこと」への回答が多く、脱炭素な取組に対して肯定的であることが分かりました。

一方で、脱炭素の取組が進むと日常生活における行動制限・費用負担が「増える・場合によっては増える」との回答が約8割

を超え、取組が進むに連れて日常生活にマイナスの影響を感じていることが分かりました。なお、費用負担においては、10%程度までなら許容できると回答した人が50%を超える結果となりました。

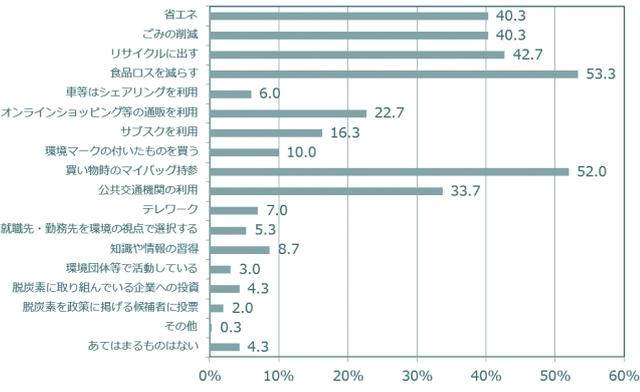
Q1. 脱炭素とは、2050年までに地球温暖化の原因となっている人為的な二酸化炭素排出量をゼロにすることです。脱炭素に取り組む人に対してどう感じていますか。(3つまで)



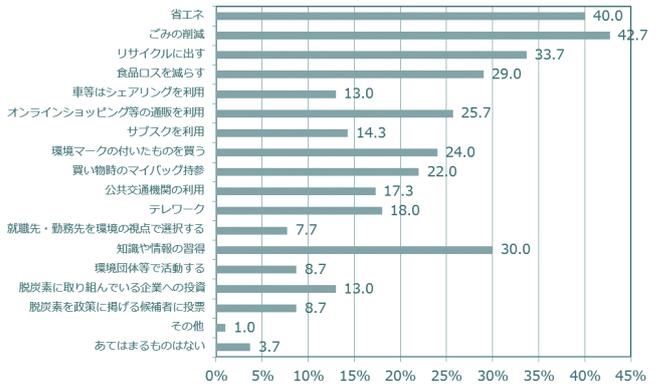
Q5. 脱炭素の取組が進んだ場合、日常生活での費用負担はどのくらいまでのアップなら許容できますか。(ひとつだけ)



Q7. 貴方が今、脱炭素に対して取り組んでいることはありますか。普段の生活で実践していることをお知らせください。(いくつでも)



Q8-1. 今後、脱炭素に対して新たに貴方が取り組みたい、又は取り組めること。(5つまで)

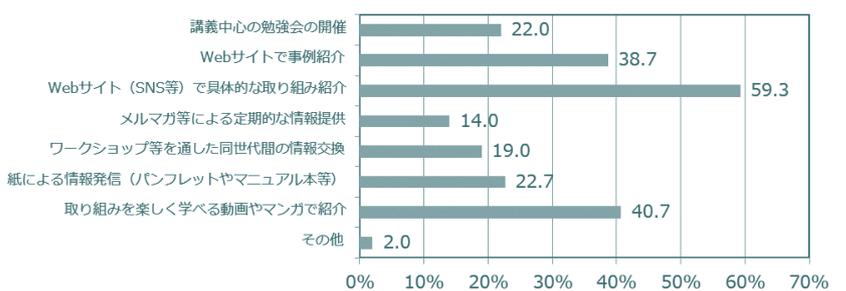


また、現在取り組んでいること・今後取り組みたいことを比較すると、「知識や情報の習得」の割合が高いことが分かりました。

そこで、どのような情報提供があれば役立つのか尋ねたところ、「Web(SNS等)での具体的な取組紹介」が多く、今後の情報発信や啓発方法に参考となる結果が得られました。

※詳しくは <https://www.kannet-sai.org/center/survey/index.html> で御覧いただけます。

Q10-1. 脱炭素の取組について、どのような情報提供方法があれば役にたちますか。(いくつでも)

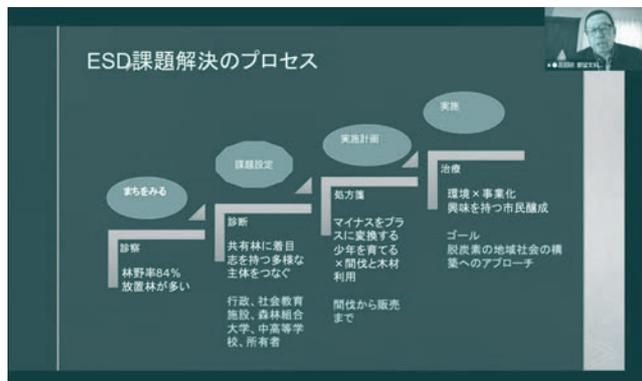




埼玉県地球温暖化防止活動推進員研修会を開催しました！

今年度も埼玉県の委託を受け推進員研修会の事務局を担当しました。コロナ禍の中で感染対策を徹底し、全研修会をオンラインのみ、又は会場とのハイブリッドで実施しました。

第2回目は、参加者に自治体担当者を交え、推進員と自治体担当で「推進員にできる自治体支援の取組」をテーマに、ワークショップ形式で意見交換を行いました。第3回目は、“若者と脱炭素WS”に参加している大学生の脱炭素への取組発表を聞いた後、推進員が若者の活動をサポートしていくためのアイデアや課題について、提案を行いました。



また、今年度は新規委嘱予定の推進員を対象に、オンラインで研修を実施しました。新規委嘱予定者のうち31人が参加し、午前中は座学、午後は、全国地球温暖化防止活動推進センター長高田研氏によるファシリテーションのもと、現推進員の活動事例発表を交えつつ「推進員活動を始めするには」をテーマに、ワークショップをとおして活発な意見交換や議論が交わされました。

推進員活動紹介

今回は、令和2年度から推進員として活躍されている福田慎太郎さんについてご紹介します。福田さんは、ご自身でエコドライブ研究所を立ち上げ、普段から企業等の法人向けに「環境にやさしく・交通事故を減らすことのできる」エコドライブの導入の推進に努めています。

また、eco検定やCSR検定、低炭素社会検定リーダーゴールドなど数々の検定にチャレンジするなど、日々の勉強を欠かさず、その経験と知識で県内のみならず県外でも講演活動等を展開しています。



下呂市“下呂 de エコドライブ”ロケの様子 (写真右:福田氏)



更に、彩の国環境大学修了生の会の理事として、当団体が事務局を務める「SDGsエコフォーラム in 埼玉」でも後方支援をいただくなど、積極的な参加によってネットワークの輪を広げています。埼玉県センターでは、今後も推進員の活動を支援していきながら、地域の活動を盛り上げていきたいと思っています。

白岡市エコドライブ講習会の様子



●事務局からのお知らせ

新パンフレット「カーボンニュートラル 脱炭素なくらしを目指して」ご活用ください！

埼玉県地球温暖化防止活動推進センターでは、新しく、家庭で取り組む脱炭素な暮らし方を紹介するパンフレットを作成しました。ホームページ上からダウンロードもできますし、印刷したものもご用意しています。印刷したパンフレットを入手ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。パンフレットダウンロードは、こちらから。

<https://www.kannet-sai.org/tool/pamphlet.html>



●令和4年度 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉通常総会のお知らせ

日時 2022年6月19日（日）

会場 ソニックシティビル4階 市民ホール

内容 ①総会記念講演会、②通常総会 ※予定

講演会はどなたでもご参加いただけます。詳細は、改めてご案内いたします。

●会員・寄付募集

認定 NPO 法人である当団体へのご寄付及び賛助会費は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれ定められた条件を満たすことで優遇対象となります。詳しくは、ホームページをご覧ください。

引き続き、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



●表紙写真



大宮駅西口から富士山方面を展望しました。

編集・発行

発行日 2022年3月31日

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター／認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉
埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎3階

TEL：048-749-1217 FAX：048-749-1218

<https://www.kannet-sai.org/index.html>

閉館日：土・日、祝日 開館時間：9時～17時

情報やお知らせ等、是非お寄せください。

